

第3回ダナン工科大学（DUT）－前橋工科大学（MIT）国際交流ワークショップ報告

建築学科 教授 石川恒夫

平成 29年 9月 11日(月) ～9月 16日(土)

於：ダナン工科大学（ベトナム）

14学科で構成されるダナン工科大学(DUT)と前橋工科大学(MIT)との交流調印は2015年9月18日のことでした。ベトナム建国40年という節目に、DUTとの交流は始まりました。今回、2017年度、第三回目のワークショップは、ダナン中心市街地のセントラル・スクエアの再開発計画をテーマとしたものです。過去2回、フーロク川やココ川流域の修景計画がテーマでしたが、DUTの先生方との事前協議で、中心市街地のことを知りたいという要望を上げていたからです。

前橋の学生は今回9名。ベトナム、ハノイ出身の留学生（大学院修士1年生）の参加もあり、言語面で大きな助けとなりました。また前回参加者は2名おり、多くの学生に国際交流を体験してもらいたいと思いつつも、経験者がいることが交流の連続性をつくり出す上で重要と考えています。DUTの学生20名の中にも前回の参加者が数名おり、再会を喜びつつ、交流がより円滑になっていきました。こうして伝統はつくりだされていくことでしょう。

ワークショップ二日目に全員で街を歩き、街のファサード、ハン市場のにぎわい、歩車道の問題、交通量の問題、ハン川との関係など、日本と同様の多岐にわたる都市固有の問題がかいまみえました。ハン市場はドイモイ政策（市場開放）の起点となった場所で、建物は古びていますが、ベトナムの人々には私たちが考えている以上に場所であることが、話の中から浮かび上がってきました。逆に私たちが伝統や母国愛に希薄なのかもしれません。施設がつくりかえられたとしても、記憶を継承することはもちろん可能ですが、市場の扱い巡って熱い議論が展開されました。そうして4グループに分かれた学生たちは、ダナンの20人の学生とともに、正味3日で、提案を図面と模型に落とし込んだのです（別紙PDFを参照ください）。15日の午前に各グループはそれぞれプレゼンを行い、DUTからの修了書が授与されました。短期間で集中した作業ですが、身振り手振り、片言の英語などで、調和的な共同体が生まれていたことは喜ばしいことです。

なお二日目には、DUTの先生お二人がご自身の研究を紹介くださり、また前橋の教員二名もそれぞれ講義を行い、研究レベルでの相互交流も以前より豊かになりつつあります。ベトナムの学生たちからは質問が途切れず、知を求める意識の高さを体験することができました。

私はこの3年で5回目のダナン訪問ですが、はじめて雨が降りました。台風は結果的にそれでしたが、日本と同じように一部授業が休講になるなど、かなり大騒ぎの状態でした。雨が降らない地域では水はけのことをこんなに考えないものなのか、というほど、都市のインフラは雨のことを考慮していません。とはいえ、プレゼンを終えた最終日の午後、台風がそれのおかげで、気持ちよくホイアン視察は可能になり、交流事業を締めくくることができたことは幸いでした。なお今後9月がベトナムDUTとの定例の交流事業開催になると思われます。